

9月14日 (日) ヘブライ 10章	「だから、自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります。神の御心を行って約束されたものを受けするためには、忍耐が必要なのです」(35～36節)。パウロは何とかして死者の中からの復活に達したいと願い、目標を目指してひたすら走っていると証した(フィリピ 3:11)。わたしたちも忍耐して主の言葉を求めよう。
15日 (月) ヘブライ 11章	「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かります」(3節)。ここの聖書に出てくる人の名前は信仰の先達である。この先、どうなるか分からなくても神の言葉に従い行動した。それは、神が準備した天の故郷を熱望していたからだろう。
16日 (火) ヘブライ 12章	「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです」(11節)。霊の父はご自分の神聖にあずからせる目的で、わたしたちを鍛えられる。主から、辛いことが与えられても耐え忍ぼう。主の愛ゆえのことであるからだ。
17日 (水) ヘブライ 13章	「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です」(8節)。わたしたちの主、イエス・キリストに従い、常に主のみ言葉に養われて生活をしたい。「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません。」(12・14) このことを心に留めておこう。

18日 (木) ヤコブ 1章	「あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます」(21節)。キリストの言葉は暗闇を照らす光である。どんな苦しい試練にあっても、キリストの言葉に照らされて耐え忍ぶことができる。そして、神から適格者と認められたら幸いだ。
19日 (金) ヤコブ 2章	「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです」(17節)。アブラハムは神の言葉を聞いて、行き先も分からないのに神に従った。彼の信仰は行いによって義とされた。主イエスも、「わたしのこれらの言葉を聞いて行うものは皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている」(マタイ7・24)と言われた。主の言葉で生きていこう。
20日 (土) ヤコブ 3章	「わたしたちは舌で、父である主を賛美し、また、舌で、神にかたどって造られた人間を呪います」(9節)。確かにそうだろう。では、主の教会で奉仕が出来るだろうか。ヤコブは「上か出た知恵は、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています」(3:17)と語る。これは聖霊の働きのことだろう。聖霊が降るのを祈ろう。
21日 (日) ヤコブ 4章	「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか」(1節)。戦いや争いの原因を他者の責任にしたがる私がいる。しかし胸に手を当てる時、自分自身にこそ原因があるのではないか。神礼拝の前に隣人になすべきことを示されたら(マタイ5:23)、行動に移す勇気をいただいて。